

平成14年度名古屋文理大学コンピュータ公開講座実施報告

Report on the Computer Literacy Courses in 2002

本多一彦, 松原友子, 周 欣欣, 森 博, 杉江晶子, 小橋一秀,
 K. HONDA, T. MATSUBARA, X. ZHOU, H. MORI, A. SUGIE, K. KOBASHI,
 山住富也, 長谷川 聡, 横田正恵, 田近一郎, 稲吉正実
 T. YAMAZUMI, S. HASEGAWA, M. YOKOTA, I. TAJIKA, M. INAYOSHI

本学の公開講座は、平成9年度の初めての開催以来毎年開催され、平成14年度で6年目になる。平成14年度は、生涯学習事業への拡大・発展の可能性を探るために、コンピュータ講座に限らずさまざまな内容の公開講座を開催した。コンピュータ講座についても、前年度までの初心者向けのパソコン講座より一段上級の「デジタルカメラと画像」「表計算入門—家計簿をつくろう—」「ホームページ作成入門」の3講座を開催した。それら3講座の内容、受講者の特徴、問題点と今後の課題について報告する。講座終了時に受講者に対して行ったアンケートの結果についても報告する。公開講座の結果とアンケートの結果をもとに本学の公開講座を総括し、今後の課題と展望を述べる。

キーワード：コンピュータ講座, 公開講座, 生涯教育

Computer Literacy Course, extension course, lifelong education

1. はじめに

平成14年度の本学公開講座では、生涯学習事業への拡大・発展の可能性を探るために、パソコン講座、語学講座、人文系・社会系の講座を複数開催した。その中で市民との交流を目的に平成9年度から先駆的にはじめられたパソコン講座は6回を数えることになった。さらに平成13年度からは、文部科学省主催のIT講習会も全国で開かれることになり、本学も委託という形でIT講習会を開催した。このIT講習会では、本学で続けてきたパソコン講座に比べ、受講者層に変化が生じてきたと考えられる。ローマ字対応表を見つつ入力を行っている受講者に混じり、何人かの受講者は講師のすべての指示が簡単にこなせてしまって退屈そうであった。公開講座を開催するにあたり、大学としてどのようなテーマを提供できるかが重要な課題であり、そのテーマは時代とともに変化をしていくものである。以下では対象をパソコン講座にしぼり論じる。

平成13年度のIT講習会での受講者の様子から、パソコン初心者コースだけでなく、もう少し進んだ中級

者のためのコースを作る必要性があると考えられる。そこで平成14年度は、13年度と同様IT講習会で、入門者層への講習を行うとともに、新たに本学独自で、以下の4つの講座（各講座定員20人）を設け募集を行うこととした。

- (1) デジタルカメラと画像
- (2) 表計算入門—家計簿を作ろう—
- (3) ホームページ作成入門
- (4) 3次元CG入門

4つの講座のテーマの選択については、講師の講座への負荷を考慮するためだけではなく、今後の生涯教育を視野に入れ、大学でのコンピュータ演習系開講科目に沿った内容とした。開講日時は、8月31日(土)、9月7日(土)の2回で、各回4時間の講習とした。

前年度の受講者に対しては6月よりダイレクトメールを送り、また一般には8月1日付けの稲沢市広報で参加者を募った。結果、講座(1)には定員の倍を越える

応募があり、また講座(4)は定員を満たさなかった。そこで、講座(1)を1クラス増やし、

- | | |
|--------------------|------|
| (1) デジタルカメラと画像 | 2クラス |
| (2) 表計算入門—家計簿を作ろう— | 1クラス |
| (3) ホームページ作成入門 | 1クラス |

の3講座、4クラスで行うこととした。

2. から4. で各講座の報告を行い、5. 6. ではアンケート結果を報告する。7. で今回の公開講座を総括する。

2. 講座「デジタルカメラと画像」

2. 1. 準備

本学では教育上の利便性を考慮して Windows NT をパソコンの OS としている。したがってユーザごとにユーザアカウントとパスワードが必要となる。公開講座においても同様で、情報実習室用ユーザアカウントを受講人数+予備数本分、本学情報処理センターから発行してもらった。講座資料や担当講師の準備のために予備アカウントから何本かを流用して準備を行った。講師が日常、講義で使用しているアカウント以外に、受講者と同等の環境のアカウントを準備しておく事は重要である。日常利用しているアカウントでは、OS やアプリケーションの初回起動時メニューや設定更新などにより受講者パソコンと講師パソコンとで操作手順の差がでるからである。

2. 1. 1. 1日目の準備

1日目の講座では、デジタルカメラの使い方、画像データの転送、デジタル画像の加工、印刷を計画した。受講者は、「パソコンは使い慣れており、デジタルカメラを使い始めている」レベルを想定した。具体的な項目と作成したテキストのページ数は、以下の通りである。

- (1) デジタルカメラの各部の名称
- (2) パソコンとの接続・データの読み取り (1)と合わせて1ページ
- (3) レタッチソフトの起動
- (4) 画像解像度の変更 (3)と合わせて1ページ
- (5) デジタル画像の加工 3ページ
- (6) 合成写真の作成 2ページ

デジタルカメラの使い方に関しては、口頭での説明で十分と考え、資料の作成は割愛した。(2)に関しては、

ファイルの選択、コピーなどの作業が中心であることから、パソコンの画面の図などは挿入せず、概念図と作業の順序を記述した。受講者が使い慣れていると予想されるワープロソフトとは使い勝手が異なることから、レタッチソフトを使ったデジタル画像の加工に関しては詳細なテキストを作成した。この他に、説明用として、8枚のスライドからなる補助資料を作成した。

資料の作成とは別に、デジタルカメラ、フラッシュパス、プリンタ、光沢紙を準備した。プリンタに関しては、印刷にかかる時間、出力サイズ、画質をあらかじめ確認した。また、講座の前日約4時間にわたり、ティーチングアシスタント(以下、TAと略記)と打ち合わせを行った。

講習後、受講者から、詳細なテキストを望む声が多かった。特に(2)に関しては、作業内容が列記してあるのみであり、また、フラッシュパスを使い、データを共通領域に保存する、という本学独自の作業が含まれていることが理由であると考えられる。公開講座で使用するテキストは、図が多く、視覚的に理解できる構成であることが望ましい。

2. 1. 2. 2日目の準備

1日目の講義ではデジタルカメラの使い方や、写真の取り込み方、写真の印刷、写真の拡大縮小、コピーペーストによる画像合成などの基礎を予定していた。2日目は写真の色調補正、レタッチソフトの応用編を紹介することにした。

レタッチソフトによる画像加工は処理する写真にかなり依存する。サンプル画像ではうまく処理できるが、別の画像になるとうまくいかないケースがある。従って、普通の写真を利用することにした。人物と身近にある風景を講師が写真に撮って、教材も手作りすることにした。受講者にとって親近感があるよう配慮した。具体的には以下の内容を考えた。

- (1) 暗い写真を明るくする
- (2) 写真の背景を変える
- (3) 洋服の色を変える
- (4) 顔の色を明るくする
- (5) シワとホクロを消す
- (6) 髪の毛を濃くする
- (7) 年賀状の作成と印刷

受講者の要求、レベルが講座募集時には分からなかったこともあり、2日間にわたりかなり多くの内容を用意した。今後は、「デジタルカメラの使い方」、「デ

ジタル画像の加工」等のように講義内容を絞り、テーマを明確にする必要がある。

2. 2. 講座報告

「デジタルカメラと画像」というテーマに関する内容は非常に幅広い。デジタルカメラとフィルムを使う従来のカメラとの構造の違いと共通性、長所と短所から始まり、フィルムに代わる記憶媒体の説明とパソコンへの画像の取り込み方法、レタッチソフトを使った画像の修正や加工とカラープリンタを使った出力など、ハードとソフトの両面にわたって、講座内容は多岐に渡ったものとなる。

さらに、受講者のデジタルカメラ所有の有無、デジタルカメラによる撮影経験の有無、パソコン所有の有無と習熟度、所有するレタッチソフトの種類など、不確定な要素が多いため、講座の内容を絞り込むことは困難をきわめた。そこで、1回4時間で全2回の講座（のべ8時間）というボリュームを考慮して、今回の講座では以下の内容を取り扱った。

●1日目

- (1) デジタルカメラの仕組みと構造、取り扱い方、撮影の基本と実際
- (2) カメラの記憶媒体からパソコンへの画像ファイルの取り込み
- (3) ビューアソフトによる画像の閲覧
- (4) レタッチソフトの基本的な操作方法
 - ・画像の解像度とサイズについて
 - ・レイヤーを使った画像合成の基礎
 - ・画像の中で処理を施す部分の選択
- (5) カラープリンタへの出力（インクジェットプリンタとカラーレーザープリンタ）

●2日目

- (1) レタッチソフトを使ったデジタル写真の補正
 - ・露出オーバーと露出不足の写真の補正
 - ・赤目現象の写真の補正
- (2) レタッチソフトを使って、受講者が1日目に撮影した写真を組み込んだカレンダーの作成と印刷（カラーレーザープリンタに出力）
- (3) デジタル写真入り年賀状の作成と印刷（カラーインクジェットプリンタに出力）

2. 3. 問題点と今後の課題

(1) 内容について

今回の講座内容は、結果的に多くの時間をレタッチソフトによるデジタル写真画像の修整や加工に費やした。それに対して、受講者は、若干の違和感を覚えたかもしれない。レタッチソフトの使用はデジタル画像処理には、必須の内容とはいえ、気軽にデジタルカメラで写真を楽しみたいという人には敷居が高い。また、レタッチソフトの種類によっても使用方法が異なるので、自分の普段使用するソフトと違っている場合、講座の価値がさがってしまうであろう。

(2) 進行について

内容以外では、講義の進行が速すぎるという声が非常に多かった。講義内容の量とも密接に関係するが、今後の課題である。

(3) TAについて

受講者数1室18人に対し、TA2人の割合だったが、受講者の年齢層やパソコン操作の習熟度からするとこれでは不足気味で、1室4人程度必要と思われた。

3. 講座「表計算入門—家計簿を作ろう—」

3. 1. 準備

表計算ソフトを利用した講座を行うために以下の準備を行った。

ユーザアカウントと予備アカウント発行については「デジタルカメラと画像」講座と同様に行った。

本講座用に、A4で8ページのテキストを準備した。初日5ページ、2日目3ページのものとした。原稿はカラーであるが、受講者にはモノクロ印刷のものを配布した。パソコン画面や図などが見にくいので予算・準備に余裕があればカラー版の配布が望ましい。

テキストは用語解説・練習手順の指示を中心に構成し、ワープロで作成した。一般書籍の入門書にあるようなパソコン画面や図等を多量に使用したものが望ましかったが、要点を列挙した簡素な補助資料的なものを用意した。実際の講座では、受講者は講師のパソコン画面を映し出す"提示装置"を見て、講師のパソコン操作手順を確認できるのでそれほど詳細な手順解説書を準備する必要はないと考えた為である。講座内容としては、基本操作から中級レベルを念頭に、本学のコンピュータ演習系科目である情報リテラシーIIの内容から表計算の基礎（作表・集計・グラフ作成・並べ替え・条件判定）を抜粋したものを用意した。テキストの他に受講者の練習教材を準備し、予め用意された表

のデータに対して各自で集計などの練習を行えるようにした。ファイルは、Windows 共有フォルダを利用した"レポートフォルダ"(注1)経由で各自に配布した。

(注1) 大崎正幸, 教育用コンピュータシステムの構築と運用, 名古屋文理大学紀要創刊号, Vol. 1, pp. 185-193, 2001.

3. 2. 講座報告

「表計算入門一家計簿を作ろう」と題して行われた本講座は26名の受講者に対して、講師1名とTA2名がついて1日4時間(午前・午後各2時間)ずつを2回にわたって開講した。

講座の手順として、はじめに表計算そのものの特徴や使い方を説明し、例題・練習問題として家計簿を取り上げるという方法で全体を進行した。また、午後の時間の中に自分で復習する時間を取った。

3. 2. 1. 講座の内容

以下の内容で2週間(各午前・午後2時間ずつ)講座を行った。

●第1週(基本操作, 縦横集計, グラフ作成)

第1週午前ではまず基本事項として、表計算ソフトの各部の名称と役割, 最も基本的な操作である文字・数値の入力, コピー, ワークプロとの違い等を説明した。

また, 簡単な縦横集計の例として家計簿の集計を取り上げ, ワークシート上での計算方法を練習した。

さらに, グラフの作成の例として, 1年間の光熱費(電気・ガス・水道)を折れ線グラフにする課題を行った。

午後は, 午前中に行った演習を個別のペースで1つ1つ復習する時間を取った。また, いろいろなグラフの作成方法や細かい設定についての指導を希望する声があったので, グラフについての説明を追加した。

●第2週(数式作成, セルの参照, 並べ替え, 関数)

はじめに第1週の内容を復習し, さまざまな数式の作成例や書式設定, 数式のコピーとセルの相対参照・絶対参照について説明した。

午後からは, データ整理として, 並べ替えとIF関数をはじめとするワークシート関数の使用方法を説明した。

3. 2. 2. 受講者の様子について

この講座はワードプロセッサで文字入力ができる程

度の技能をもっていることが前提で始められたが, コンピュータ使用歴や普段の使用頻度によってかなりの差があったと思われる。例えば, 第1週の内容でコピーの範囲指定, メニュー選択, 作成したグラフの移動やサイズ変更などは, マウス操作が不安定な受講者がかなり遅れ気味であった。反対に, すでに表計算ソフトを使ったことがある受講者もあり, 第1週午前の内容では物足りない様子がうかがえた。このような受講者の習熟度の差に応じて少し多めに練習問題を準備しておく必要がある。

また, 第1週は操作中心であるのに対し, 第2週では具体的なデータの整理にはいる。そのため, コンピュータ操作よりも作業内容の理解を求められ, 受講者は急に難しくなったと感じた様子である。特に関数を使ったデータ処理は理解度に大きな差があった。この点については, 本学の学生を対象にリテラシー教育を行う場合も同様の反応がある。内容をよく考えてデータを処理したり, 文章をまとめたりすることは, 単なるコンピュータの操作技術と異なる技能であることを示している。

受講者の年齢はさまざまであったが, 理解度, 進捗についてはいずれも年配の受講者(50歳以上)が, 内容が難しいもしくは速すぎると感じていたようで, TAに対する質問が多く見られた。

また, 1日に4時間もパソコンの画面に向かっているのが辛いという声や, 2回の講習だけでは成果を実践できないので, 少しずつ長期間にわたって継続する講座を望む声があった。これらは, 表計算に限らず本学の公開講座全般の課題といえる。

表計算の課題として取り上げた家計簿については, それぞれの家庭により考え方や家計簿の付け方に違いがあるため, どこまで希望に添えたか分からない。自分で家計簿を付けているのでそれを持参して指導を受けるとよかったという声もあったが, それらの1つ1つにまで対応するのは難しい。むしろ, 講座の方針として表計算に親しむ1つの例として家計簿を最初に取り上げる。そして, その使い道は各自で応用・工夫してもらうという方が望ましいように思われる。

4. 講座「ホームページ作成入門」

4. 1. 準備

ホームページ作成ソフトを利用した講座を行うために以下の準備をした。

ユーザアカウントと予備アカウント発行については

他の講座と同様である。ただし本講座ではホームページをインターネット上に公開するための Web 用設定を追加して情報処理センターに依頼した。依頼内容は Web サーバ用アカウントの作成に加え、ホームページの登録者各自が、Telnet 接続で Web サーバにアクセスし、Unix コマンドを用いて Web 用ディレクトリを準備するといった一連の手順の代わりに、これらの処理をセンター側で予め一括して準備するというものである。これにより受講者のホームページ登録操作を容易にした。ホームページ用ファイルの登録にはフリーソフト"FFFTP"を利用することにした。GUI で操作可能であり、FTP コマンドを利用した登録に比べ簡単に登録が可能である。

テキストは10ページのものを準備した。準備上の留意点は表計算講座と同様である。ただしこちらでは、URL フォーマット・リンクの概念・ホームページ掲載事項に関する注意（著作権・個人情報）・ファイル登録時の FAQ など解説的な内容が多いものとなった。講座内容については、解説よりも受講者のホームページ作成実習を中心に考えた。またこのテキストを情報リテラシーII のホームページ作成用資料として採用した。

テキストの他に、ホームページの解説に"本学公開講座案内"のホームページ（注2）を利用した。また見本用ホームページを作成し、制作と動作の確認を行った。さらにホームページのフリー素材集（画像データなど）を掲載したホームページを検索し、URL を紹介した。これは、一般に販売されている素材集やフリー素材集は利用範囲がほとんど個人利用に限定されているため、本講座で直接提供が出来ない為である。これに伴い、2日目の講座ではスキャナーを実習室に移設し、受講者が持参した写真などを素材として利用できるように取り計らった。

（注2）公開講座 URL: <http://www.nagoya-bunri.ac.jp/UNIV/KOZA/>

4. 2. 講座報告

2週（2回）にわたって実施された講座には、15人の受講者が、ほぼ毎回出席し、午前と午後の講座を受講した。これまで例年開催してきたパソコン初歩講座の受講者にはパソコン操作の初心者が多かったが、本講座は、パソコンや OS (Windows) の初歩的操作や日本語入力、ファイルなどの意味を一通り理解できるレベルの受講者で占められた。今回の他講座の受講者と比較しても、本講座希望者の平均年齢は低く、パソ

コン経験者の割合が多かったといえる。

講座では、1週目に、パソコン操作をしながらインターネットとホームページの基本事項を理解するとともにツールを使った Web ページの作成法を学び、1週間の後、2週目の講座で、画像データと文字データから成るコンテンツを作成、本学サーバを利用してそれぞれのページを公開した。全体を通して、文字データと画像データの扱い・ハイパーテキストの構成・コンピュータネットワークのしくみ・既存ページや素材を利用してコンテンツを作成する上での知的所有権の問題など、広範囲の基本的知識を学びながら、1回目の講座と2回目の講座の間の1週間にコンテンツのアイデアと素材収集を行ってもらった。内容は広範囲にわたるが、パソコン初心者ではない受講者には、概ね内容が理解され、全ての受講者が Web の公開まで到達することが出来た。一般向けの情報処理関連講座のアドバンスコースとしては、これ以上高度に専門知識を要する内容にするよりも、本講座のように基本的な知識を総合して利用し、一つの作業（本講座ではホームページの作成と公開）を達成することを目標とする内容が適当であると考えた。ただし、特に後半は、受講者の作業が個別なものとなるため、TA や講師による個別対応が必要となる。

今回は受講者の人数が比較的少なかったが、それでも TA 2名のうち1名がスキャナによる画像取りこみの操作に取られ、個別対応が充分だったとはいえない状況も見られた。また、2回という少ない開講期間ではあったが、間の1週間のうちにコンテンツを考える余裕があった点は幸いしたといえる。ただし、公開したページをお互いに鑑賞・評価しあったり、公開後に修正して完璧を期すだけの時間的余裕まではなかったと言える。あわただしい講座ではあったが、受講者の理解や反応は良好であり、講座後、受講者からも概ね良好な感想が得られた。

なお、本講座で作成・公開されたページは、受講者の了解を得て、本学の Web サーバで当分の間学内外に公開を行う（注3）が、セキュリティの問題から講座終了後の学外からの修正・編集は不可としている。

（注3）公開講座 URL: http://www.nagoya-bunri.ac.jp/UNIV/KOZA/lec_hp2002.html

5. 受講者アンケートの結果

本パソコン講座では、講座終了時に受講者に対しアンケートを実施した。アンケートは、受講者が受講し

た講座に関する内容と、受講者に関する内容、パソコン講座に関する受講者の希望から成る。本章では、受講者に関する内容、およびパソコン講座に関する受講者の希望調査の集計結果を示す。

5. 1. パソコン講座の受講者

回収されたアンケートは、「ホームページ作成入門」(HP 講座)が16、「表計算入門」(表計算講座)が19、「デジタルカメラと画像」(デジカメ講座)が33の合計68であった。

図1に、各講座別受講者年齢を示した。図1よりHP 講座では40歳代が最も多く、デジカメ講座では

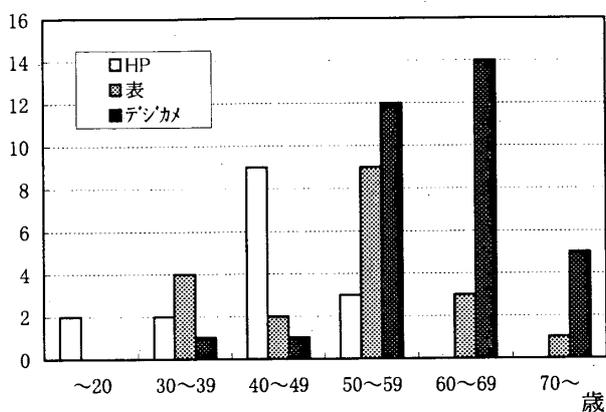


図1 講座別受講者年齢

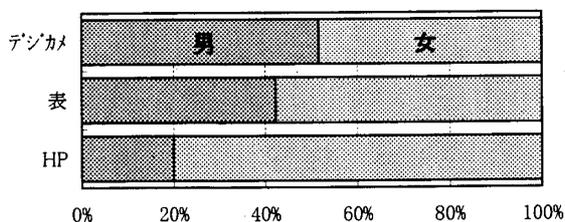


図2 講座別受講者性別

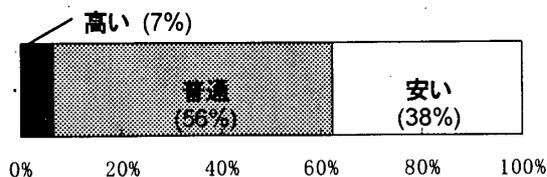


図3 講座受講料

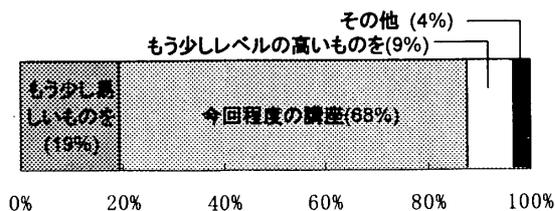


図4 パソコン講座として望むもの

50歳代から70歳代の受講者が圧倒的に多いことがわかる。また、図2には、講座ごとの男女比を表示した。HP 講座では女性が多く、デジカメ講座では男性の割合が高い。デジカメ講座受講者によるアンケートの自由記述欄には、カメラ技術に関する記載が複数あったことから、中高年のカメラ、写真を趣味とする男性が多く受講したと考えられる。

5. 2. 公開講座に関する受講者の希望調査

本公開講座の受講料、3,000円が妥当であるか問う項目の集計結果を図3に示す。普通または安いと感じている受講者があわせて93%であることから受講者のほとんどは、講座の受講料に納得していると考えられる。安いと感じている受講者が38%あり、講座の準備費用を考慮すると、多少の受講料の値上げが可能である。

また、今後の公開講座の開講時期として、8月から9月に都合が良いとする回答が11と最多であった。また土曜日に開催することについては、68人中51人が適切であると回答した。本講座が8月から9月の土曜日に開催され、その参加者によるアンケート結果であることから、他の開催時期、開催日時と併せて総合的に考慮する必要がある。

図4には、今後、本学のパソコン講座としてどのようなものを望むかという問いに対する回答を示す。現在のレベル程度、もしくは少しやさしい講座が期待されているようである。この傾向は、講座による大きな違いはなかった。また、具体的な記述として、年賀状作成講座、パソコン入門講座の開講を希望する意見が複数あり、専門的でなく実用的で、比較的初心者向きの講座を希望する意見が目立った。

5. 3. 今後のパソコン講座

以上のアンケート結果から、本学のパソコン講座は、比較的高い年齢層の参加が多く、実用的で簡単な内容が期待されていることがわかった。従来から本学のパソコン講座では初心者を対象とした講座が開講され、ニーズにあった内容を提供できているようである。

アンケートの自由記述欄に、以下のような記述があったので付記する。

- ・公開講座を受講したことによって、本学が身近に感じられるようになった。
- ・本学の講座は評判が良いので、来年も受講したい。
- ・他にも受けたい講座があるので、再び開講してほしい。

い。

6. TA 学生からの報告

今年度のパソコン公開講座では「デジタルカメラと画像」、「表計算入門一家計簿を作ろう」、「HP 作成入門」の3講座を開催した。これは、近年の公開講座受講者層の変化、つまり従来の公開講座で提供していたワープロ、電子メール、インターネット閲覧といった初歩的な内容を既にマスターしたと思われる受講者が増加しつつある状況への対応を目指すものであった。そこで、本章では我々の予想通り従来とは異なる層が受講したのかを探るため、受講者の特徴を、TA 学生からのアンケート結果を通してまとめてみる。

TA 学生の各講座への配置は8月31日、9月7日の両日とも以下の通りである。

- (1) 「デジタルカメラと画像」(18人×2クラス)に3人(2人+1人)
- (2) 「表計算入門一家計簿を作ろう」(24人×1クラス講座)に2人
- (3) 「HP 作成入門」(15人×1クラス)に2人

その内訳は、のべ6人必要な(1)を TA 未経験の3年生3人で、のべ8人必要な(2)と(3)を去年の公開講座 TA 経験者6人と TA 経験のある3年生1人の計7人で、それぞれ担当するというものであった。去年同様、TA 学生にはあらかじめ講座で使用する教材を配布し予習してもらった。特に、複雑な操作が要求される(1)担当の TA 学生には8月30日に半日間の予行演習を行い操作習熟につとめた。

TA 学生へのアンケートをコースごとにまとめた結果を以下に示す。なお、アンケートの回答は TA 学生10人のうち9人から得た。

(1) 「デジタルカメラと画像」

<受講者の態度と質問の仕方>

- ・ダブルクリック等の基本的な操作を知らない受講者が予想外に多い(この意見はデジタルカメラを担当したすべての TA 学生が述べた)。
- ・年配者の割合が多い。そのためか、同じ質問を繰り返す受講者がかなり見られた。
- ・多くの受講者は1週目の講座で学んだ内容を2週目には忘れていたようであった。
- ・受講者から(講座内容が多いため)「たった2日間の講座ではわかりません」と訴えられた。

<質問内容>

- ・レタッチソフトのツールの使い方に関する質問

が大半をしめた。

(2) 「表計算入門一家計簿を作ろう」

<受講者の態度と質問の仕方>

- ・学習意欲が高い。従って、TA の説明もしっかり聞いてもらえた。
- ・大半の受講者は文字入力、マウス操作、GUI の基本操作をある程度理解している。そのため、それらの操作にわずらわされることなく講師の説明に集中できていた。
- ・大半の受講者は TA への質問の際に丁寧な言葉づかいであった。ただし、年配者・理解している人の中には高圧的な態度をとる人もいた。
- ・去年の TA は飲み屋の従業員のような扱いを受けたが今年は先生として扱われた。
- ・挙手による質問が多い。

<質問内容>

- ・講座で扱った内容に関する質問がほとんどで高度な質問はなかった。

(3) 「HP 作成入門」

<受講者の態度と質問の仕方>

- ・積極的である。
- ・大半の受講者は受講内容の理解に必要な(基本的な GUI 操作等の)基礎知識を十分に備えていた(一部の受講者は初心者のため説明を全く理解できていないようだった)。
- ・そのため質問の際も知りたいことがらを正しく把握できており、的を得た質問をしてきた。
- ・挙手による質問は少なく、声をかける、眼でうったえる等による質問の割合が多かった。

<質問内容>

- ・JavaScript 言語によるプログラミング、アクセスカウンタやフレームの作り方について。
- ・1cm 当りのピクセル数に関する質問。

以上のアンケート結果より今年度の受講者の特徴はおおよ次のようにまとめられる。

まず、「デジタルカメラと画像」の受講者の多くはパソコンの操作に関して初心者レベルであった。にもかかわらずこのコースではパソコンにある程度慣れた人でもとまどいそうな複雑な操作を要求されるので、受講者は操作をこなしていくのに精一杯で操作の意味を確かめつつ進む余裕がなかった。その結果、質問が頻繁に生じ TA もその対応に手一杯であった。我々は、パソコンの基本操作に関して問題のない人が、デジタ

ルカメラで撮影するだけでなく撮った画像をいろいろな用途に加工するという目的でこの講座に応募したものと予想していたのだが、実際にはデジタルカメラで撮った画像を単にパソコンで見るといった目的で多くの人（しかもパソコンに関しては初心者）が応募してきたようである。

対照的に、「表計算入門－家計簿を作ろう－」と「HP作成入門」の2講座には、マウス・GUIの操作、ワープロ（文字入力）等の基本技能に習熟した人が更なる技能のレベルアップを求めて応募したものと思われる。従って、受講者はパソコン操作にわずらわされずに講師の説明に集中でき、講義全体も円滑に進められた。このことは複数のTA学生の「TAを楽にこなすことができた」、「授業のスピードは適切であった」等の回答からも裏づけられている。これらの講座の受講者層は我々の予想通りであったといえる。

公開講座へのTA制度の導入も2年目に入った。講座受講者のほとんどから「親切に教えてもらった」、「丁寧に答えてくれた」、「分かりやすい説明だった」、「対応がはやい」等の肯定的な回答が寄せられた。今年度のTA制度の活用も成功したといえる。来年度も引き続きこの制度を公開講座へ活用したい。最後に講座補助の依頼を快諾してくれた以下10名の学生諸君に謝意を表して本章を終える。

情報文化学科4年生

井口 靖

柴田 啓介

羽田野英吾

浅井 恵一

山下 亮介

社会情報学科4年生

高田 峰之

情報文化学科3年生

小川 真紀

重野 幸恵

野畑 有加

社会情報学科3年生

高橋 将男

7. 今後の課題と展望

平成14年度は、コンピュータ講座が「デジタルカメラと画像」、「表計算入門」、「ホームページ作成入門」の3講座、語学講座が「英会話の基礎」、「中国語会話

の基礎」の2講座、その他に「臨床心理学入門」、「簿記検定対策講座」、「日本経済の海外進出と地域経済の国際化」を開催した。この他に、稲沢市の委託を受けて受講者40人規模の「IT講習会」を開催した。

先に各講座の報告にもあるように、平成14年度のコンピュータ講座は、「デジタルカメラと画像」が定員20名のところ2倍を越す応募があり、「表計算入門」と「ホームページ作成入門」は定員20名程度の応募であった。しかし、「3次元CG入門」講座はわずか6名の応募にすぎず、開催を中止した。社会的ニーズが大きいと思われるコンピュータ講座のなかでも、このように応募者数に偏りが見られた。コンピュータ講座以外の講座をみても、「臨床心理学入門」、「英会話の基礎」などは応募者が多いが、「中国語会話の基礎」、「簿記検定対策講座」、「日本経済の海外進出と地域経済の国際化」などは応募者は少なかった。

受講者の年齢は、大部分が40～70歳代であった。男女の比率は、女性が多く、男性の多い「デジタルカメラと画像」においても女性が6割を占め、若くなるほど女性の占める割合が高くなる傾向が見られる。主な受講者は、女性が主婦、男性が50～70歳の高齢者であった。

公開講座は、大学の教育・研究の成果を広く地域社会や社会一般に開放することを目的とし、それが、①地域社会に対する貢献、②大学のイメージアップ、③学生の募集などに寄与すると言われている。平成14年度において、多数の応募があった講座は初心者向けのものであり、大学の高度な教育・研究との結びつきは弱い。受講者層から考えて、本学が学生向けの授業を広く一般社会人に開放した場合に、公開講座の受講者が、科目履修生あるいは聴講生となる可能性は小さいと推測される。

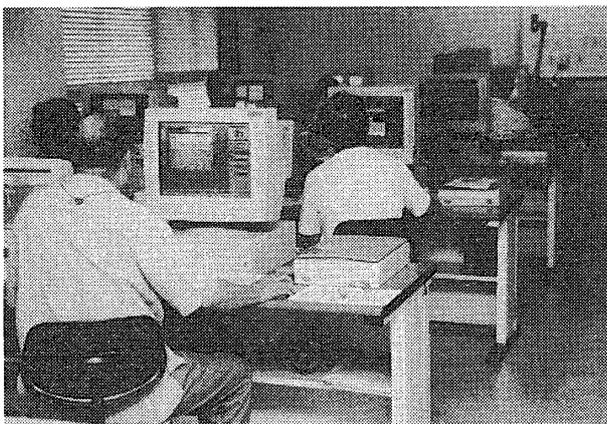
公開講座を生涯学習事業として発展させ、収益事業として位置づけようとする考えがある。この点についてみると、本学周辺や名古屋市において、社会人が受講できる講座は多く、愛知県の県民大学講座、稲沢市が開催する生涯学習講座、他大学の公開講座、文化センターの講座、英会話・パソコン等のスクールなどで、趣味、パソコン、健康、スポーツ、家庭生活、教養、語学、社会問題など多種多様の講座が開催され、競争状態にある。受講者に対するアンケートの結果によれば、本学の公開講座は、近くで開催され便利、受講料が安い、親切・丁寧な指導などの特徴を有するということであるが、これでは、受講者の増加、収益の拡大

は望めそうもない。集客力のある講座内容である、他の講座との差別化を図る、地域住民のニーズに柔軟に対応するなど、本学の講座に魅力ある特色を持たせ、広い地域から受講者を集める必要がある。そのためには、多くの講座を開設するという量の問題だけではなく、大学という高等教育機関に相応しい内容であるか、地域社会のニーズに的確に応えるような講座であるかなど、質の問題も問われる。

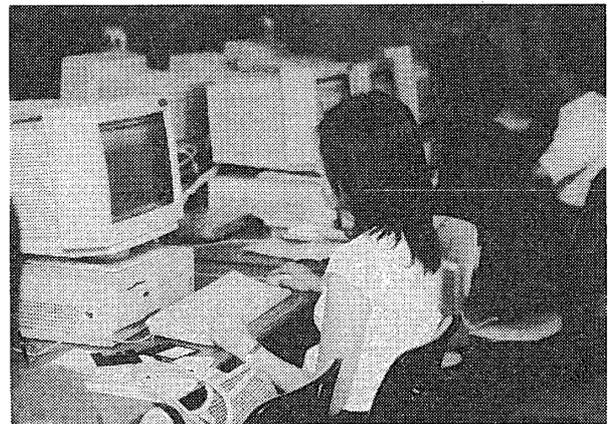
現在、本学の公開講座は、研究委員会が兼務し、教員の専門分野や施設・設備の使用状況に応じて講座内容や日程を決めるなど、公開講座のための組織や設備が未整備である。公開講座の拡大に伴い、教職員の業務量の増大や休日出勤の増加などが懸念される。平成14年度の「IT講習会」を含めたコンピュータ講座のための休日出勤は延べ47人日であった。通常の出勤日の作業時間については把握できていないが、かなりの時間数になると思われる。夏期休暇中あるいは休日に

勤務した場合は、休日振替での対応となっているが、研究・授業・会議等により、振替休日が取れない状況も出ている。実際は、公開講座の準備作業を、勤務時間外あるいは本務とする研究や教育のための時間を割いて行っているのが実状である。このことから、公開講座の拡大のためには組織や制度の整備が望まれる。

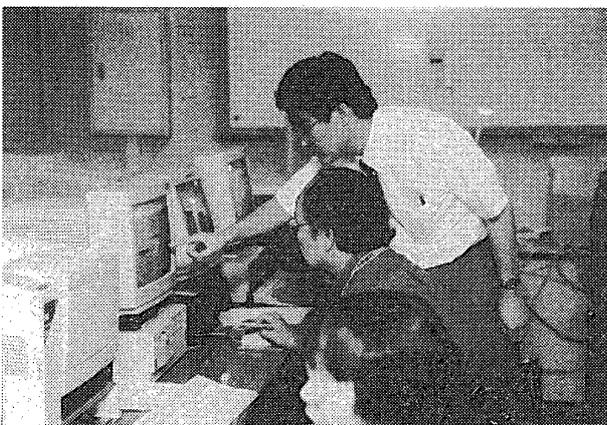
公開講座を生涯学習事業として拡大・発展を図るためには、受講者と大学との関係が、開催期間中だけの一過性で終わるのではなく、生涯にわたって、その時々必要とする学習機会を提供するような永続的な関係を築く必要がある。そうすることによって、受講者を固定客化することができる。そのためにも生涯学習センターあるいは生涯学習委員会を設置するなどの組織や施設の整備が求められる。また、地域住民に対する総合的な教育サービスの提供のためには、稲沢市など地域の生涯学習関連機関との連携・協力も重要である。



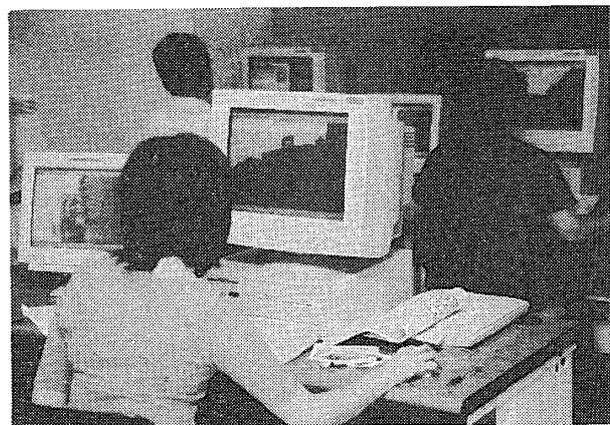
講習風景 1



講習風景 2



講習風景 3



講習風景 4